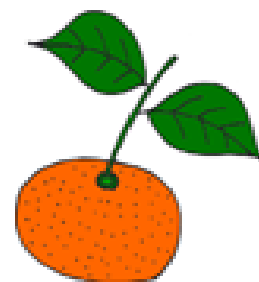


# 干ばつに負けないミカンづくり

ミカンは夏期に干ばつにあうと、小玉で酸っぱい果実になるだけでなく、翌年着花過多となり、その後の生産を不安定にします。干ばつが発生した場合に簡単に翌年の着花過多を予測し、それを抑える方法を開発しました。



## 干ばつ翌年の着花過多を予測する方法

満開後40日目(6月下旬頃)から10日毎に  
果実横径(10果/樹×3樹)を調査する

平年値を蓄積するために平年並みの気象でも月に1~2回は調査しましょう



**干ばつ進行中** 果実肥大率の平年差を計算する

満開後40日目から調査日までの果実肥大率の平年差  
= 平年の果実肥大率 - 当年の果実肥大率



例：平成6年の干ばつ発生時の果実横径(mm)と果実肥大率(%)

満開後日数	40日	60日	満開後60日の果実肥大率(%)	80日	満開後80日の果実肥大率(%)
平年値	21.8mm	30.6mm	$(30.6 - 21.8) / 21.8 \times 100 = 40$	40.6mm	$(40.6 - 21.8) / 21.8 \times 100 = 86$
平成6年	21.8mm	28.8mm	$(28.8 - 21.8) / 21.8 \times 100 = 32$	34.6mm	$(34.6 - 21.8) / 21.8 \times 100 = 59$

(平年の果実肥大率 - 平成6年の果実肥大率) 40 - 32 = 8ポイント

86 - 59 = 27ポイント

注) 6月下旬から9月上旬(満開後約110日)までほぼ無降雨

果実肥大率は平年に比べて満開後60日に8ポイント、90日には27ポイント低下していました。

**果実肥大率が平年に比べて25ポイント以上低下  
翌年の着花過多の危険性大!! 対策を行いましょう**

## 着花過多を抑える方法

### 干ばつ進行中の対策

まず **かん水** です。1樹あたり20~30ℓのかん水を行い被害を防ぎましょう。

### 収穫前後の対策(発育枝の発生数を増加させる)

収穫約1か月前から7~10日間隔で3回、

0.3%尿素溶液を樹全体に葉面散布

収穫後に1回25ppmジベレリン溶液を

樹全体に葉面散布



